

森の施設概要

1 栗東自然観察の森の開設

「自然観察の森」は都市近郊に今なお残る身近な自然を活用し、その自然に触れ親しむことによって自然を理解し、自然を大切にすることを育んでもらうことを目的に、環境庁が1984（昭和59）年度に、「身近な自然活用地整備事業」として補助事業の制度を設け、横浜市、姫路市、そして栗東市（当時は栗東町）など全国で10ヶ所がこの補助事業の対象となった。

栗東自然観察の森は、1985（昭和60）年度から3ヵ年かけて整備を行い、1988（昭和63年）に施設が完成し、同年4月18日オープンした。

2 栗東自然観察の森の位置

栗東自然観察の森は、琵琶湖の南、湖南地方に位置する栗東市のほぼ中央部にあたる安養寺山とそれに連なる丘陵地にある。

また、栗東自然観察の森の近くに名神高速道路「栗東インターチェンジ」があり、国道1号も近くを通っているので、大変交通の便に恵まれている。

周辺地域は宅地開発によって市街化が進んでいるが、この丘陵地は、コナラ、アカマツに代表される二次林で、多くの植物、昆虫、そして野鳥が四季折々の風景を見せてくれる。

なお、栗東自然観察の森の総面積は13.7haで開設されたが、当園敷地の一部を含めた道整備等により、平成29年度からは13.1haである。

3 自然観察路と観察ゾーン

森の中心施設であるネイチャーセンターからいろいろな観察ゾーンにつながる自然観察路をたどると、多くの動植物に接することができ自然の不思議さを感じたり、自然との語りができるようになっている。

【自然観察路】

園内には、舗装された幅2.7m・長さ216mと幅3.6m・長さ140m、未舗装の幅1.5m・長さ2200m、木道の幅1.0m・長さ195mの自然観察路がそれぞれ整備されており、各ゾーンに通じるようになっている。また、自然観察路は所々に数十段の階段があり、登り降りの自然の変化や展望が楽しめるように設計されている。

【自然観察ゾーン】

観察の森には10ヶ所の観察ゾーンが設けられており、それぞれの名称に適合する動植物の生態が観察できるように努めている。各ゾーンの特色は、次のとおりである。

(1) 生態見本園 (2, 500㎡)

この付近は主にコナラ、シイ林、そして 竹林などで構成されていたが、ここに樹皮植物(キハダ)を導入したり、湿地には陰性湿地植物(ザゼンソウ、ショウジョウバカマ等)、シダ類、薬草類を導入した。

更に、栗東自然観察の森には少ないダブノキ、シイ、ウリカエデ、コバノトネリコ、ヤイチリンソウ、ニリンソウ、マムシグサ、イカリソウ、イワウチワ、シュンラン、スズムシソウ等を導入し、入園者に見本的な役割が果たせるように努めている。

(2) ビートルランド (3, 500㎡)

ここは主に、アカマツ、ヒノキ林であるが、樹間にテーブル、ベンチを配置し、小中学生や諸団体など、数十人が学習や昼食・休憩の場として利用できるようにしている。

(3) 植生回復見本園 (2, 000㎡)

アカマツ、スギ、ヒノキ、ススキ、セイタカアワダチソウ、シロツメクサ、タンポポ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ等が自生している。

ここは、定期的の下草の刈取りを行い、草本類を中心とした観察や昆虫の観察の場としている。

(4) イトトンボの湿地 (1, 500㎡)

この湿地には、ハルリンドウ、モウセンゴケ、スイラン、サギソウ、フトイ、ヒルムシロ、ミツガシワ等の湿地植物が観察できる。

(5) カエル池 (500㎡)

ここには、ヨシ、コウホネ、カキツバタ、ショウブ等を植栽している。

(6) クワガタの林 (3, 600㎡)

コナラ、クヌギ、そして マツ等があるが、シイタケの古い原木を堆積し、腐植土を覆い、カブトムシやクワガタムシの発生しやすい条件を整備して自然発生を促している。

(7) ヒヨドリの丘 (2, 300㎡)

シイ、ヒノキ、ツバキを植栽した。ヒヨドリの丘という名称であるが、現在では、このあたりで特に多くヒヨドリが生息していたとは言えず、“シイの森”という名前で子どもたちの体験活動の場として活用している。

(8) バッタが原 (1, 200㎡)

(9) シジュウカラの小径 (2, 800㎡) *現在閉鎖中です。

(10) アゲハチョウの広場 (2, 000㎡) *現在閉鎖中です。

これらの場所については、開園当初植栽し、名称にあるような生き物が生息しやすい環境づくりに努めてきたが、植栽管理が困難な状況にある。

4 ネイチャーセンター

ここは栗東自然観察の森の中心となる施設で、アカマツの林にとけ込むよう配慮された木造の建築物である。

入園者は森の中で植物、昆虫、そして野鳥などを直接観察し自然のしくみを学ぶが、ネイチャーセンターは自然観察に出かける前にあらかじめ学習するところである。

このため、ネイチャーセンター内の展示室には自然観察の方法や四季の自然の一部が展示されている。また、センターには自然観察の指導員を配置しているので、自然観察のアドバイスを受けることができる。

[ネイチャーセンターの概要]

(1) 建 物

- 形 : 外観は上から見ると鳥が翼を広げた形を表現している。
色 : 柱は黒色、梁はグレイ、壁はレンガ色を使用している。
面 積 : 建物面積 412.67㎡
床面積 367.89㎡
建築様式 : 木造、平屋建、銅版葺き

(2) 主な内部施設の概要

①研修室

ネイチャーセンターの中で最も大きい部屋で、60～70人が収容できる。また、室内はワイヤレスマイクや演台も設置されているので講演も可能であり、さらに、周囲の壁面を利用してパネル絵画の展示を行うことができる。

②展示室

この部屋は展示物を見たり読んだりして、野外での観察の予備知識を得るところである。

1) 情報案内コーナー

入口正面に観察の森の俯瞰図と周囲に各ゾーンの様子(10ヶ所)を写真で紹介している。

2) 展示・体験コーナー

このコーナーは、淡水魚の飼育や、四季の植物や種子や身近に観察したり、手に取ったりして理解を深めることができるよう標本、模型を展示している。

また、テーマに合わせて、関連する動植物の標本を展示している。

3) ジオラマ(立体模型)

観察の森は主体がコナラ、アカマツ林で、一部ヒノキが植林されている。野外に出ると、この森に住む小動物に出会うことはなかなかできない。このジオラマでは、森に生息する動植物が観察でき、入園者に森の構造や生態系を把握してもらえるように設計されている。

③談話室

談話室は入園者が野外を観察後、休憩・談笑したり、情報交換や観察指導員から解

説を受けたりするところである。

ここには、図書館コーナーが設けられており、入園者の観察の再確認、調査に利用できるようになっている。

図書は動植物、鉱物、気象関係の図鑑や観察に必要な手引書、環境問題にかかわる啓発書、さらに児童の科学読み物などが収蔵されている。

また、窓際からは野鳥のウォッチングが楽しめる。

5 観察小屋

野鳥や小動物を観察する場所として、観察小屋がカエル池周辺に2棟、ヒヨドリの丘に1棟、計3棟が建設されている。

観察小屋は、木造、片屋根造り、銅版葺で、面積は1棟18.34㎡である。

観察小屋は、立地条件や構造から検討を要する余地もあるが、自然観察の森には休憩所が少ないので、休憩所としてよく利用されている。

6 その他の施設

この他、駐車場6,536㎡と公衆便所2棟（駐車場内22.35㎡、ネイチャーセンター内55.15㎡）が完備している。